

令和7年度 国語科 第Ⅱ学年 年間指導計画

東京都立大泉高等学校附属中学校

学期	月	単元名 (教材名) (配当時数)	学 習 活 動 ・ 内 容	評価の主な観点			評 価 の 観 点 規 準	評価のための 判断材料
				主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能		
1 学期	4 月	広がる学びへ(8) ・見えないだけ ・アイスプラネット ・話し合いの流れを整理しよう ・書写 行書と楷書の違い①(2)	・詩を読み、表現の特徴や題名に込められた作者の思いを捉える。 ・文学的な文章を読み、登場人物の言動に着目して、人物の関係や心情の変化を捉える。 ・熟語の構成について理解する。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。 ・形や方向の変化に気を付けて書く。	○	○	○	・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 ・登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	・授業への取り組み ・ノート ・作文、感想文 ・発表 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト ・書写作品
	5 月	広がる学びへ(12) ・枕草子 ・意見を聞き、整理して検討する ・クマゼミ増加の原因 ・書写 行書と楷書の違い②(2)	・古典を含む文章を朗読し、作者の季節に対するものの見方や感じ方を捉える。 ・互いの作品を読み合い、構成のしかたや情報の活用のしかたなどについて助言し合い、自分の考えを広げる。 ・説明的な文章を読み、文章の構成や事実と考えの示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。 ・点画の連続や筆順の変化に気を付けて書く。	○	○	○	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書くとしている。	
	6 月	広がる学びへ/人間のきずな(16) ・魅力的な提案をしよう ・ヒューマノイド ・新しい短歌のために ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・書写 行書と仮名①(2)	・資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉を効果的に組み合わせ自分の考えを説明する。 ・文学的な文章を読み、作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を捉える。 ・心情や情景が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。 ・メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・行書に調和する平仮名の筆使いや字形に気を付けて書く。	○	○	○	・資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 ・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 ・メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼性を判断するために必要なことについてまとめている。	
	7 月	人間のきずな(12) ・字のない葉書 ・敬語 ・書写 行書と仮名②(2)	・随筆の味わい方を学び、小説作品との違いについて考える。 ・敬語の種類や特徴について理解し、状況に応じた適切な敬語の使い方を考える。 ・教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 ・行書と平仮名の調和に気を付けて書く。	○	○	○	・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 ・敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。 ・本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。	
2 学期	9 月	人間のきずな・論理を捉えて(12) ・表現を工夫して書こう ・表現の効果を考える ・聞き上手になろう ・モアイは語る ・書写 行書と仮名③(0)	・伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。 ・表現の効果に着目して、文章を推敲する。 ・質問によって相手の思いや考えを引き出す。 ・説明的な文章を読み、知識や体験と関連付けて自分なりの考えをもつ。 ・行の中心や、漢字と仮名の大きさ、行頭末の位置など配列を整えて書く。	○	○	○	・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・読み手の立場に立って手紙を推敲し、考えや思いがより伝わるような表現に書き改めている。 ・文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論理の展開を吟味している。 ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	・授業への取り組み ・ノート ・作文、感想文 ・発表 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト ・書写作品
2 学期	1 0 月	いにしえの心を訪ねる・論理を捉えて(16) ・音読を楽しむ 平家物語 ・「平家物語」の世界/「平家物語」の主な登場人物たち ・適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く ・書写 楷書と行書①(2)	・古典（古文）を含む文章を朗読し、作品独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。 ・史料をもとに、古典作品の世界観を味わう。 ・目的や場面に応じて行書と楷書を使い分けて書く。 ・根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章を書く。	○	○	○	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	・授業への取り組み ・ノート ・作文、感想文 ・発表 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト ・書写作品
	1 1 月	いにしえの心を訪ねる・価値を語る(16) ・扇の的―「平家物語」から ・仁和寺にある法師―「徒然草」から ・君は「最後の晚餐」を知っているか ・書写 楷書と行書①(2)	・登場人物の言動から心情を考え、そこに表れた価値観に対して、自分なりの考えをもつ。 ・古典の随筆に触れ、作者の人間観察の巧みさを味わう。 ・二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深める。	○	○	○	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。	
	1 2 月	いにしえの心を訪ねる・価値を語る(16) ・漢詩の風景 ・具体と抽象 ・書写 楷書と行書②(1)	・古典（漢文）を含む文章を朗読し、それぞれの漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を読み味わう。 ・複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明する。	○	○	○	・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 ・複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。	
3 学期	1 月	表現を見つめる・価値を語る(12) ・走れメロス ・立場を尊重して話し合おう ・書写 楷書と行書②(2)	・文学的な文章を読み、心情を表す語句や、登場人物の言動の意味などを考え、人物像の変化を捉え、作品を読み深める。 ・互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめる。	○	○	○	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。	・授業への取り組み ・ノート ・作文、感想文 ・発表 ・定期考査 ・課題テスト ・小テスト ・書写作品
	2 月	表現を見つめる(12) ・描写を工夫して書こう ・書写 生活を豊かにする文字①(2)	・自分の体験の中から題材を探し、場面の様子や気持ちの変化が効果的に伝わるように、描写や構成を工夫して書く。 ・学習活動及び日常生活において、書写の学習で身に着けた力を生かして書く。	○	○	○	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	
	3 月	表現を見つめる(6) ・国語の学びを振り返ろう ・鍵 ・書写 生活を豊かにする文字②(2)	・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 ・詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・目的や必要に応じて書体を使い分け、効果的に伝える工夫をする。	○	○	○	・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ・詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	

- ※ 指導計画には言語事項の「書写」を含みます。
※ 生徒の習得状況に合わせ、進度の変更や教材の追加を行うことがあります。
※ 教科書と副教材を取り扱う割合は、おおよそ教科書 2 に対して副教材 1 の割合です。